

堺におけるチタン汚泥問題

報告:北 就一(ノーモアチェルノブイリ・堺)

1. 経過

1990 年 チタン汚泥問題がクローズアップされる中、堺市内にも、臨海の処分場7-3区に古河機械金属のチタン汚泥が埋められ、また菱木に堺化学の処分場があることが明らかになった。

堺市議会で、長谷川俊英市議が取り上げた。すでにこの段階で7-3区には7万5000トンの汚泥が投棄されていた。

1994 年 7-3区の土地再開発利用計画が明らかになる中で、チタン汚泥問題が再度クローズアップ。

吉井玲子市議が、議会で取り上げ、市から測定データを得る。

1995 年 堺チタンフォーラム開催。

2000 年 堺化学菱木処分場跡地視察。

吉井議員を通じて、堺市環境局廃棄物対策課の同行で、7-3区を視察。

2. 各処分場の現況

①堺化学工業菱木処分場跡地

敷地が府道で分断されている。

フェンスで囲まれ、ゲートには「酸化チタン廃棄物を含む」の表示はある。

周辺は徐々に企業なども立ちつつあり、今後転売されることも考えられる。

堺市は、半年に1回空間線量を測定、年に1回水の核種分析を行っている。

現在のところ、バックグラウンドを上回る測定値は計測されていない。

②7-3区

1990 年から 1993 年の間に、45,000トンが搬入され、搬入は終了。覆土され、覆土は現在1m程度になっている。今後更に2m程度嵩上げの予定。

堺市は、年に1回空間線量測定と排水の核種分析を行っている。

現在のところ、線量に変化はない。